

「自立活動の指導」の指導事例（幼稚部ひよこ組 A児）

幼稚部ひよこ組 教諭 大門 志帆

I 指導について

①学習上、生活上の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達に関わろうとしてくれても気付かず、一人で遊びを楽しんでしまう。</li> <li>・自分の思い通りにいかないことや、嫌なことがあると、泣いたり相手をつねったりしてうまく伝えられない。</li> </ul>
②困難さの背景とその実態	<p>○一人の遊びに集中しているため、教師や友達からの関わりに気付いていない。</p> <p>水遊びやプラレールなど好きな遊びのときには、教師や友達が近付いたり言葉を掛けたりしても視線を向けたり受け入れたりせず、一人で遊びに没頭している。</p> <p>○相手に気持ちや要求を伝える経験や伝える表現が少ない。</p> <p>泣いたり、気持ちが高ぶっていたりするときには声は出るが、言葉はない。自分の気持ちに伝えてもらえなかったときには感情を抑えきれず泣いてしまう。</p> <p>○望ましくない関わり方で相手や周りの大人に自分の気持ちを伝えている。</p> <p>嫌なことがあるときには、相手をつねる。また、一緒に遊ぼうとする相手を押ししたり、友達が遊んでいるおもちゃを取ったりする。</p>
③指導すべき課題	<p>教師に抱きかかえられてグルグル回してもらったり、くすぐられたりするなど身体接触を伴う遊びを好み、笑顔で声を出し、楽しい気持ちを表す。その際、教師に近付いて視線を合わせる等、教師を意識する姿が見られる。一方でおもちゃを友達と共有したり、一緒に遊ぼうとする教師からの働き掛けを受け入れたりすることが少ない。</p> <p>これらのことから、まずは、身近な大人と一緒に好きな遊びをする中で、教師からの関わりに気づき、楽しい気持ちやうれしい気持ちを感じる経験を増やすことが大切だと考える。その中で、教師と視線を合わせたり、楽しい・うれしい気持ちを表現したりする場面を増やしていきたい。</p>
④指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの関わりに気付いたり、期待したりしながら教師と一緒に遊ぶ。</li> <li>・好きな遊びを通して、自分の気持ちを声や表情、体の動きで表現する。</li> </ul>

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の安定に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかかわりの基礎に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの基礎的能力に関すること</li> </ul>

⑤具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの関わりに気付く、受け入れて遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師に近付いたり、視線を合わせたりして楽しい気持ちを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真カードや具体物を見て行き先や活動内容を知り、教師と一緒に取り組む。</li> </ul>
⑥指導の場	日常生活の指導・個別活動 朝の遊び・設定遊び	朝の遊び・設定遊び・個別活動	日常生活の指導・朝の遊び・設定遊び

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場	遊び全般	朝の遊び・個別活動	日常生活の指導・設定遊び
⑦指導内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に関わろうとしている教師の存在に気付くことができるように、本児の近くで視線を合わせながら言葉を掛ける。</li> <li>・教師に近付いたり、教師と視線を合わせたりした際には楽しい気持ちを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期待して教師の声や動きを見聞きできるように本児と視線を合わせ、「せーの。」等の掛け声をしてから身体接触遊びを行う。</li> <li>・本児が好きな遊具で、教師と一緒に楽しめる遊具を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児が行き先や活動内容を理解しやすいよう、場所の写真カードや活動内容を象徴する具体物を提示したり、身振りや言葉を掛けながら誘ったりする。</li> <li>・自分から取り組もうとした際は、たくさん褒める。</li> </ul>

## II 指導の経過・結果

<指導期間：6月～12月>

指導の場	遊び全般	朝の遊び・個別活動	日常生活の指導・設定遊び
指導の実際 と子供の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が正面から名前を呼び、手を出すと、笑顔を向けたり、視線を合わせたりしながらハイタッチをして返事をする事ができるようになった。</li> <li>・教師が視線を合わせながら「まてまて。」と言って近付くと、教師と視線を合わせながら笑顔を向けたり、走ったりして遊ぶ事ができた。</li> <li>・抱っこで遊ぶ際に何回か繰り返して遊んだ後、教師が少し離れた位置で手を広げて待っていると、笑顔で視線を合わせながら抱き着き、やりたい気持ちを表現する事ができた。</li> <li>・教師の手を引き、パネルシアターのパネルに手を伸ばしたり、取ってほしい物に手を伸ばしたりする事が増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が本児の正面からくすぐると教師と視線を合わせて笑ったり、くすぐりを期待して自分から近付いたりすることが増えた。</li> <li>・自分から教師に近付き、教師の手を取ってグルグル回しをするように何度も伝えたり、教師に笑顔を向けて楽しい気持ちを表現したりすることができた。</li> <li>・トランポリンでは、教師と手をつなぎ視線を合わせて体を動かしたり、笑顔を見せたりして教師と一緒に遊ぶ事ができた。</li> <li>・本児が好きな「アンパンマン」のパネルシアターでは、教師の歌に合わせて出てくるパネルをじっと見たり手を伸ばしたりすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかけを見て給食の時間ということが分かり教室に入ったり、石鹸を見て手を洗うことが分かり手洗い場に移動したりできるようになった。</li> <li>・散歩用の乗り物が見えると、散歩に行くことが分かり、自分から近付き、乗ることができた。</li> <li>・教師が提示した活動場所や活動内容の写真カードを見て自分から靴を取り出したり、教室のドアの前に移動したりすることが増えてきた。</li> <li>・トイレに行きたいときに教師の手を引いてトイレの前に行ったり、トイレバッグを手を取ったりして伝えることがあった。</li> <li>・自分の遊びたい遊具の写真カードを三択の中から選ぶことができるようになってきた。</li> </ul>
困難さの 変容	<p>教師が正面から大きく身振りをしたり、言葉掛けをしたりするなどの関わりをしたことで教師からの関わりに気づき、視線を向けたり自分から近付いたりすることが増えた。本児が好きな身体接触を伴う遊びや遊具を使った遊びをすることで教師からの関わりを受け入れ、一緒に遊べるようになった。写真カードや具体物を見せながら次の活動に繰り返し誘うことで、次の活動場所や内容を理解できるようになり、自分から靴やトイレバッグを持つなど、準備する様子も見られるようになってきた。さらに、教師が提示した複数の写真カードから自分の遊びたい遊具のカードを選択するなど、写真カードを用いて気持ちを伝える様子も見られる。一方で、好きな遊びに集中していると、活動の切り替えが難しく、教師が次の活動の写真カードや具体物を提示すると耳をふさいだり、泣いたりすることがある。</p>		

## III 子供の指導において効果的だったこと

### 1 教師が本児の好きな遊びや遊具を使用して活動内容を設定すること

教師が、本児の好きなトランポリンやブランコなどの遊具を使用することで、教師からの関わりを受け入れ視線を合わせたり笑顔を向けたりすることができた。また、本児が好きな追い掛けっこやくすぐり遊び等を繰り返して行うことで、教師からの関わりを期待して近付いたり、自分から教師の手を引いたりすることが増えた。

### 2 本児の正面で関わったり、本児と目を合わせながら言葉を掛けたりすること

本児の正面から名前を呼んだり、本児の視線の高さに写真や具体物を提示したりして関わることで教師からの働き掛けに気づき、視線を向けたり、顔をのぞき込んだりすることが増えた。遊んでいる本児の様子に合わせて、「楽しいね。」「～したいだね。」など、本児の思いに寄り添った言葉掛けを繰り返すことで、教師に笑顔を向けたり、自分から近付いたりして気持ちを伝えることが増えた。

「自立活動の指導」の指導事例（幼稚部 りす組 B児）

幼稚部りす組 教諭 若林 季

I 指導について

①学習上、生活上の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>やりたくないことを要求されたときや嫌なことをされたとき、気持ちをうまく伝えられず、泣いたり物を投げたりして表現することがある。</li> <li>自分ではうまくできず手伝ってほしいことがあるときに、教師にお願いすることができないでいる。</li> </ul>
②困難さの背景とその実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気持ちを表現する手段が少ない。 嫌な気持ち、悲しい気持ちになったときに、泣くか物を投げて怒りを表現する。</li> <li>○自分の思いを表現する言葉が少ない。 気持ちを表現したり、助けを求めたり、要求したりする言葉が少なく、表出できない。</li> <li>○人と関わり、気持ちを共有したり、やり取りしたりする経験が少ない。 自分ではうまく解決できないときに、教師が近くにいっても呼んだり声を掛けたりすることが少ない。困ったときに、自ら発信して助けを求めることができない。</li> <li>○教師からの働き掛けを受け入れることが難しい。 教師がおもちゃを持って行き、遊びに誘うと、何も言わずに教師の手から取り、一人で遊び始めたり、教師が他の遊びを提案しても手を払いのけたりして受け入れることができない。</li> </ul>
③指導すべき課題	<p>「あっち。」や「こっち。」、食べたい物の具体的な名称などは以前から言葉で伝えられることもある。しかし、それだけでは伝えきれない場面が多く、自分の思いをうまく表現できずに困っている場面も見られる。また、自分から教師に関わったり思いを伝えたりすることは少ない。そこで、教師や友達と関わりながら遊ぶことを通して、教師とのやり取りを楽しみ、「〇〇が楽しい」、「もっと～してほしい」などの思いを伝えようとする意欲を育みたい。</p>
④指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と一緒に体を動かしたり、物を介して遊んだりして、教師とのやり取りを楽しむ。</li> <li>自分のやりたいことや教師にやってほしいことを、言葉や身振りなどで伝える。</li> </ul>

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>情緒の安定に関する事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者とのかかわりの基礎に関する事</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの基礎的能力に関する事</li> <li>言語の受容と表出に関する事</li> </ul>

⑤具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と一緒に体を動かしたり物を介して遊んだりして、「楽しい」と感じる経験を重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師とやり取りをしながら遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師との遊びのなかで、やりたいことや要求を伝えること。</li> </ul>
⑥指導の場	朝の遊び・設定遊び	個別活動・朝の遊び・設定遊び	朝の遊び・設定遊び

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場	朝の遊び	個別活動・設定遊び
⑦指導内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>「もっと～したい」という思いをもって遊べるように、体を使った遊びや、数字を使った遊びなど、本児の好きな物と一緒に遊ぶ。</li> <li>教師とやり取りできるように、本児の働き掛けに合わせて、教師が表情豊かに動きや声で反応する等、本児の好きな関わり方で遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の働き掛けに合わせてペーパースート等を操作して遊ぶ。</li> <li>教師や友達とやり取りをしながら遊べるような活動を設定する。</li> </ul>

## II 指導の経過・結果

<指導期間：6月～12月>

指導の場	朝の遊び	個別活動・設定遊び
指導の実際 と子供の評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師とアルファベットを交互に言い合い、発音しづらい「ジェイ」の音を「ゼイ」と言い間違えて笑い合う遊びを繰り返した。</li> <li>・教師と交互に数字を言い合ったり、教師が書いた数字に続けて書き足したりしながら遊んだ。</li> <li>・読んでいた絵本をきっかけに、教師が「シュルルルー。」と大きな動きと声で遊び始めると、「もう一回。」と言って繰り返し同じ動きをしてほしいことを伝えて遊んだ。</li> <li>・抱っこをしたり身体接触を伴う遊びをしたりする中で、笑顔で視線を合わせ、「もう一回やってほしい」という気持ちを、声や指差し、身振りなどで伝えて繰り返し遊んだ。</li> <li>・教室に貼ってある、おもちゃの写真カードを教師に手渡し、取ってほしいおもちゃがあることを伝えるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別活動では、掛け合いのある「カレーライス之歌」に合わせて、食材や調味料のイラストカードを鍋に入れたり、調理器具で炒める動作をしたりした。他の遊び場面で、「にんじん。」「にんじん。」等と教師と掛け合いをしながら歌うことがあった。</li> <li>・動物のイラストに食べ物を食べさせるふりをする教材では、教師の言葉を聞いて「ねずみ。」や「いちご。」と言うことがあった。</li> <li>・乗り物遊びでは、教師が「ぶつかる、ぶつかる。」と言いながら三輪車をこぐと、逃げ回ったり追い掛けてきたりした。また、友達が乗るそりを三輪車で追い掛けたり、わざとぶつかったりして遊んだ。</li> </ul>
困難さの変 容	<p>教師と追い掛けっこをしたり、数字やアルファベットを交互に言ったり書いたりするなど、教師とやり取りをしながら遊ぶことができるようになってきた。また、友達とおもちゃや本の取り合いになったときに、「かして。」「ちょうだい。」と言ったり、教師の提案や要求を拒否するときは「ちがう。」「いらない。」と言葉で伝えたりする場面が増えてきた。教室からプレイスペースに出たいときは「開けて。」と言ってドアを開けてほしいことを伝えられるようになってきた。また、取ってほしいおもちゃがあるときは、おもちゃの写真カードを教師に手渡しして伝えられるようになった。しかし、友達からの関わりが嫌だと感じ、相手の髪の毛を引っ張ってしまったり、思い通りにならないことがあると、教師にうまく伝えられず、突然泣き出してしまったりすることがある。</p>	

## III 子供の指導において効果的だったこと

### 1 幼児の好きな関わり方で遊ぶこと

本児は、教師が大きな動きをしたり、大きな反応をしたりして関わることを好む。絵本や遊具を介して、「シュルルルー。」や「まてまてー。」など大きな動きや表情、声などで関わることで、「もっと～したい」、「もう一回やってほしい」という思いを引き出すことができた。

### 2 幼児の好きな物を介して遊ぶこと

本児が興味のある数字やアルファベットであれば、教師の働き掛けを受け入れ、交互に書いたり言い合ったりするなど、やり取りをしながら遊ぶことができた。歌や調理も好きである本児には、教師が歌う「カレーライス之歌」を聴きながら、食材のイラストカードを鍋の中に入れたり、中身をかき混ぜたりして操作することは、教師の働き掛けを受け入れたりやり取りをしながら遊んだりすることのできる活動であった。また、教師と一緒に寝転がりながらぐるぐる回るような体を使った遊びでも、「楽しい」「もう一回やってほしい」という思いを、表情や身振りなどで繰り返し伝えて遊ぶことができた。

### 3 教師と一緒に遊んで「楽しい」という経験を積み重ねてきたこと

教師と一緒に遊んで「楽しい」、「もっと～したい」という思いを重ねてきたことや、教師と一緒に遊びながら好きな遊びが増えてきたことで、伝える意欲が育ちつつあり、遊びたいおもちゃのカードを教師に手渡し伝えることができるようになってきた。

「自立活動の指導」の指導事例（幼稚部うさぎ組 C児）

幼稚部うさぎ組 教諭 遠藤 佑一

I 指導について

①学習上、生活上の困難さ	・初めての環境で活動するときや、初めて取り組む活動のとき、苦手なことに取り組むとき、何かを指示されたときなど、取り組むことを拒んだり、物を投げたり、たたいたり、その場から離れたり、別の活動を続けたりすること。
②困難さの背景とその実態	○様子や動きを表す言葉など、正しく理解している言葉が少ない。 友達とぶつかったときに、「どっち一んしたね。」と言ったり、服を脱ぐことを「ばんざいする。」と言ったり、紙を投げて遊ぶことを「ひらひらする。」と言ったりするなど、知っている絵本に出てくる言い回しをそのまま使ったり、動作を行うときに掛けられた言葉をその動作語として使用したりすることが多い。 ○伝えたいことを適切に言葉で伝えることが難しい。 苦手なことや嫌なことを言葉で伝えることが難しく、全て「ばいばいしー。」と言って、働き掛けてくる相手を拒む。苦手なことや、嫌なことがあると、独語が増えたり、思っていることと逆のことを言ったりするなどする。 ○初めて関わる人や行うこと、活動の切り替えなど、変化への対応が難しい。 初めて関わる人に抵抗を示し、一度苦手だと感じると、受け入れるまでに時間がかかる。登校時に母親から離れることが難しく、特定の友達が来るまで玄関に入れないことが多い。活動の終わりや移動を伝えられると、拒否して遊び続ける。
③指導すべき課題	安心して活動できる環境の中で、教師とのやり取り遊びを楽しみ、様々な活動に取り組みながら、気持ちを表す言葉や動きを表す言葉などを覚えて、適切に自分の気持ちを相手に伝えられるようにする。
④指導目標	・教師と一緒にごっこ遊びや絵本の再現遊びをするなど、やり取り遊びを楽しむ。 ・様々な遊びや活動に意欲的に取り組む中で、気持ちを表す言葉や動きを表す言葉を覚えたり、使ったりする。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>情緒の安定に関する事</li> <li>状況の理解と変化への対応に関する事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者とのかかわりの基礎に関する事</li> <li>自己の理解と行動の調整に関する事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの基礎的能力に関する事</li> <li>言語の形成と活用に関する事</li> <li>状況に応じたコミュニケーションに関する事</li> </ul>

⑤具体的な指導内容	・自信をもって取り組めることを増やすために、様々な活動に意欲的に参加し、成功体験を重ねる。	・活動動画、タイマーなどを活用し、順序や、内容、量、時間を視覚的に理解し、安心して活動に取り組む。	・気持ちや動きを表す言葉を聞いたり使ったりしながら、教師と一緒にやり取り遊びを楽しむ。
⑥指導の場	設定遊び・個別活動	日常生活の指導	遊び全般・個別活動

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場	設定遊び、個別活動	日常生活の指導、遊び全般
⑦指導内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味・関心の高い教材等を使う。</li> <li>教師と一緒に道具を操作したり、絵本を見たりしながら、動きを表す言葉や、物の名前などを覚える。</li> <li>具体的な活動内容が分かるように手本動画を事前に見る。様々な表現をしていいことを伝え、教師の手本と違う動きを考えて表現したときには、称賛したり、教師も一緒に行ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の内容や順序などを理解できるように、スケジュールを文字で書いたり、写真やイラストカードを活用したりして伝える。</li> <li>気持ちや動きを表す言葉を使うときには、身振りや表情、擬音語や擬態語なども使用しながら伝える。</li> <li>タイマーで終わり時間を示したり、本児に終わりの時間を決めてもらったりする。</li> </ul>

## II 指導の経過・結果

<指導期間：6月～12月>

指導の場	設定遊び・個別活動	日常生活の指導・遊び全般
指導の実際 と子供の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びから個別活動に切り替わるときに、個別活動では普段から繰り返し楽しんでいる絵本や、道具を教材として使用することを示すことで、遊んでいるおもちゃ等を片付けて、スムーズに学習スペースへ移動できることが増えた。</li> <li>運動遊びが始まる時に、実際に取り組む場所や使用する器械・器具が示された手本動画を用意したことで、本児に動画が始まることを伝え、遊びを切り上げて着席するようになり、その後、活動場所に移動するための準備を進んで行うようになった。</li> <li>素材遊びを始めるときに、活動内容や流れが示されている動画を視聴することで、説明後の活動にスムーズに移動し、活動の途中で別の遊びを始めたり、その場から離れたりすることなく、最後まで活動に集中して取り組めることが増えた。</li> <li>設定遊びの中で本児から提案されたことを、危険のない範囲で受け入れたら、教師も一緒に楽しんだりすることで、意欲的に活動に参加したり、様々な表現を考え出したりして、教師に伝えることが増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの順番で何回行うことができるかなどが分かるように順番表を用意したことで、自分の番まで待つことができるようになった。</li> <li>残り時間が視覚的に分かるタイマーを使用することで、終わりに気付いて活動を切り替えられることが増えた。</li> <li>石や木片などが落ちている場所で靴を脱いで遊ぼうとしているときに、「危ないから靴を履いてね。」ではなく、「足の裏ちつくんして、痛い痛いになったら大変だから靴はこうね。」などと身振りや表情を交え、具体的に分かりやすい言葉を使って伝えることで、教師の指示を受け入れられることが増えた。</li> <li>朝の遊びや休憩時間に興味・関心の高い絵本やアニメを話題にして再現遊びを行うことで、本児から教師を遊ぶように誘うようになり、その中で出てくる言葉を再現遊び以外の日常場面で使用したりすることが増えた。</li> <li>外遊びで、本児が教師にシャベルで穴を掘ってほしいことを「しゃべってください。」と伝えてきたときに、「先生はシャベルで穴をザクザク掘りますね。」と道具の名前と動作を表す言葉を正しく伝え、実際に穴を掘りながら「あなあなほりほり♪」とリズムを付けながら言ったり、「ザクザク。」と言ったりすることで、「青いシャベルで、ザクザクしてください。」や「穴を掘ろうよ。」などと正しい表現で教師に要求できることが増えた。</li> </ul>
困難さの 変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人遊びが減り、教師を遊びに誘ったり、教師が提案した遊びを受け入れて一緒に楽しんだりすることが増えた。</li> <li>タイマーが鳴ったら今取り組んでいることを終わりにして次の活動に取り組むことなど、終わりの時間を自分から提案し、切り替えを行うことができるようになった。</li> <li>活動の説明が始まると進んで着席し、初めて取り組む活動でも、取り組む内容を理解して意欲的に活動へ参加できることが増えた。</li> <li>適切な言葉で要求や拒否を伝えられることが増え、物を投げたり、たたいたりすることが減った。</li> <li>教師との好きな関わり遊びが増え、教師に「〇〇（苦手なこと）したら、△△（好きな遊び）しようね。」と言う等、好きな遊びを励みに、自分から苦手なことに取り組もうとすることが出てきた。</li> </ul>	

## III 子供の指導において効果的だったこと

### 1 本児にとって分かりやすい言葉や表現で指示をしたり、活動内容を伝えたりしたこと

活動内容等を伝えるときに、身振りや表情、擬音語や擬態語を使用したり、視覚的に分かりやすい教材を使用したりすることで本児が伝えられた言葉の意味や活動内容を正しく理解できたこと。

### 2 教師との信頼関係を高め、教師と一緒に行いたいやり取り遊びを増やすことができたこと

一人遊びが減り、教師とのやり取り遊びが増えたことで、教師が使う言葉を聞いたり、間違っただけの言葉を正しく教えてもらったりする機会が増え、語彙の拡大につながった。また、教師と一緒に遊ぶことを励みに苦手なことに取り組んだり、切り替えのきっかけになったりすることが増えた。

### 3 タイマーやスケジュール表を活用し、始まりと終わりを明確にしたこと

活動の切り替えのタイミングや順番、活動内容が明確になり、見通しをもち、安心して活動に参加することができるようになった。

「自立活動の指導」の指導事例（小学部1年生 D児）

小学部1年1組 教諭 小林 健吾

I 指導について

①学習上、生活上の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠リズムが安定しない。</li> <li>・常に動いており、じっくりと活動に向かったり休んだりすることができない。</li> <li>・壁や床を強くたたかためけが多い。本児はけがに気付かずやり続けてしまう。</li> <li>・大人の手を引く、体によじ登る以外に、自分の要求を伝える方法がない。</li> </ul>
②困難さの背景とその実態	<p>○生活リズムを作ることが難しい。</p> <p>休息を取ることや落ち着いて過ごす経験が少なく、睡眠や遊び、生活習慣などを作ることが難しい。また、睡眠リズムを整える薬の調整はまだできていない。</p> <p>○周辺視遊びやあご打ちなど自己刺激行動を続けている。</p> <p>感覚遊びが多く、物に働き掛けることが難しいため物の操作や機能を学習することが難しく因果関係や始点終点の理解が育ちにくい。</p> <p>○感覚の鈍麻</p> <p>けがをしていることに気付かない等、感覚の鈍麻が見られる。そのため自己刺激も激しくないと満足ができず常に動いていたりあごや足を打ちつけていたりする。</p> <p>○人とやり取りする経験が少ない。</p> <p>感覚遊びに没頭し、人の働き掛けに気付いたり一緒に活動する経験が育ちにくい。そのため人に働き掛ける力が弱かったり人からの働き掛けに気付きにくかったりする。</p>
③指導すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の呼び掛けに気付く等、人への意識を高め、人と一緒に活動することの楽しさを感じられるようになってほしい。</li> <li>・教師と一緒に落ち着いて物と関わり、物事の意味を知り、満足感や自分でやった達成感を感じてほしい。</li> </ul>
④指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の呼び掛けに気付いたり応えたりする。</li> <li>・教師と一緒に落ち着いて物を見たり、操作したりする。</li> </ul>

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒の安定に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかかわりの基礎に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有する感覚の活用に関すること</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの基礎的能力に関すること</li> </ul>

⑤具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の呼び掛けに気付いたり応えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒に落ち着いて物を見たり、操作したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚に働き掛ける遊具で活動をしたり、休息を取ったりする。</li> </ul>
⑥指導の場	教育活動全般	国語・算数・自立活動	休み時間

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場	教育活動全般	国語・算数・自立活動	休み時間
⑦指導内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの働き掛けに気付くように正面から関わり、視線を合わせてから本児に向けて言葉を掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正面から具体物を提示したり、言葉を聞かせたりする。また、入れたり片付けたりする場所を明確に示して伝える。</li> <li>・終わりや、活動の結果が分かるように、刺したり、入れたりした際に、手応えや音の出る教材・教具を使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児から腕を引いたり、声を掛けて「～してほしい」と要求があった際には、正面から視線を合わせて応えたり言葉を掛けたりして応えるようにする。</li> <li>・休息を取る際は、落ち着いた状態を作れるように、教師に体を預けて一緒に休んだり、教師が、本児の手や足に触れたり動かしたりしながら身体接触を伴うやり取りを行う。</li> </ul>

## II 指導の経過・結果

<指導期間：6月～12月>

指導の場	教育活動全般	国語・算数・自立活動	休み時間
指導の実際 と子供の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が、正面から視線を合わせて名前を呼んだり、具体物を提示したりすると、その働き掛けに気付いて視線を教師に向けたり、提示した物に手を伸ばしたりすることができた。</li> <li>・9月になると、3メートル程離れた距離から本児に対して名前を呼び掛けると動きを止めて振り返るようになった。</li> <li>・着替えの際に、更衣室で着替えの袋を正面から見せながら「着替えるよ。」と言葉を掛けると服を脱ぐようになった。12月頃になると「座って。」や「トイレに行くよ。」、「片付けて。」などの自身に掛けられた言葉に気付いて教師と一緒に行動に移すことが増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で椅子に座り、教師が正面から提示する教材をじっと見たり、自分から手を伸ばしてやろうとしたり、うまくできないときに教師の手を取り「いっしょにやってほしい」という思いを伝えることができるようになってきた。</li> <li>・本児が操作することができるスイッチ教材や、音と光の出るコマを使用した際に、教材が動いたり、光ったりすることに気づき、手元をじっと見るようになった。</li> <li>・輪抜き課題では、6月の段階では、2軸を抜くことも難しかったが、12月頃には、手元や、少し先を見ながら輪を操作し、3軸の輪抜きがスムーズに行えるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの時間や休み時間など、好きなつり遊具で遊ぶ際には教師の顔を見ながら腕を引いて「やりたい」という要求を伝えることができた。さらに、押している教師を見ながら笑顔を見せたり、つり遊具が止まると、再び教師の腕を引いて「もっとやってほしい」と何度も要求したりするなど、教師の働き掛けやその結果を理解してやり取りをしたり応えたりすることができた。</li> <li>・教師に体を預けて体の力を抜く等、ゆっくり休んだり、教師が本児の手や足に触れると視線を向けたりするなど落ち着いて過ごすことのできる時間が増えてきた。11月頃にはクッションに一人で座ったり、横たわったりするなど教師からの身体接触を伴うやり取りがなくても落ち着いた状態を保てるようになってきた。</li> </ul>
困難さの 変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で座っていられるようになり、教師が読み聞かせる絵本を見て、展開に期待して教師にほほ笑み掛ける等やり取りを楽しんだり、呼び掛けにタッチなどで応えたりするようになってきた。手元や操作する物に視線を向けたりすることができるようになり、図画工作で行った絵の具での活動では、絵の具の入ったカップを自分で持ち、キャンバスに垂れる様子をじっと見つめたり休み時間にタブレット端末を見たり、画面に触れたりして過ごすことができるようになってきた。</li> <li>・つり遊具に乗せてほしいときや揺らしてほしいときに、教師の顔を見ながら腕を引いて連れていくようになり、活動の中で楽しい気持ちを教師に向かって笑顔を見せ気持ちを共有するようなやり取りが増えてきた。</li> <li>・足を踏み鳴らしたり、壁をたたいたりする行動が減った。手に持った物であごをたたく行動は見られるが、以前のようにたたき続けることは減った。</li> </ul>		

## III 子供の指導において効果的だったこと

### 1 教師が正面から、視線を合わせて関わったこと

教師が視線を合わせたやり取りを徹底したことで、本児が自分に働き掛けられていることに気づき、本児からも教師に視線を向けて関わろうとしたり、教師の働き掛けに応じたりするようになった。

### 2 感覚に働き掛ける活動を存分に行なったこと

回転遊具等を用いて、壁や床をたたいて充足していた感覚を補ったことで、自己刺激行動が軽減された。その上で、教師とやり取りしながら遊んだことで、人と一緒に活動する楽しさを味わい、「〇〇してほしい」という思いを自ら伝えるようになった。

### 3 本児の体を、教師の体に預ける等、リラックスした状態を知る活動を行なったこと

常に動き回っていた本児が、教師と一緒に休息したり、リラックスした状態を味わったりしたことで、目の前の物に気付いたり、落ち着いて物を操作したりすることができるようになった。

「自立活動の指導」の指導事例（小学部3年生 E児）

小学部3年1組 教諭 五反田 明日見

I 指導について

①学習上、生活上の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安なことや自信がないことがあると、泣いたり怒ったりして活動に取り組めないことがある。</li> <li>自分の思いや気持ちを相手に伝わる言葉で表現することが難しい。</li> </ul>
②困難さの背景とその実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○失敗を恐れる。これから先に起きることに対して、心配になりすぎる。自分一人ではうまくできないかもしれない、母が迎えにくるのかなどと、不安になり、泣いたり大きな声を出したりすることがある。</li> <li>○自分が抱えている感情を受け止めながら、物事に冷静に取り組むことが難しい。「早く終わらせなければならない」「自分はこうしたい」などの感情が先走り、落ち着いて教師の話の聞くことができないことがある。</li> <li>○相手への伝え方が分からない。教師にやってほしいことを「〇〇先生がやりたかったんでしょ。」と言ったり、母に座っていてほしいときに「ママ、携帯、お菓子。」と言ったりする。嫌なことや悔しかったことを言葉にできず、泣いたり怒ったりして伝えることがある。</li> </ul>
③指導すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と一緒に自分のもてる力、できることを十分に発揮して、一つの活動をやり遂げたり、新しいことに挑戦したりすること。</li> <li>相手に思いや気持ちを言葉で表現すること。</li> </ul>
④指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいことに挑戦したり、できることは自分で取り組んだりして、自信をもって一人で取り組めることを増やす。</li> <li>教師とのやり取りを通して、自分の気持ちや思いを相手に伝わる言葉で表現する。</li> </ul>

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>状況の理解と変化への対応に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の理解と行動の調整に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>状況に応じたコミュニケーションに関すること</li> </ul>

⑤具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情を表す言葉や動きを表す言葉を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に分かりやすく自分の気持ちや思いを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でできることは自分で取り組んだり、教師に依頼して一緒に取り組んだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の簡単な手伝いを通して、新しいことに挑戦したり、多くの人と関わったりする。</li> </ul>
⑥指導の場	国語・算数・自立活動 いきいきタイム	日常生活の指導 教育活動全般	日常生活の指導	日常生活の指導

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場	国語・算数・自立活動 いきいきタイム	教育活動全般	日常生活の指導
⑦指導内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>本児や友達が映っている動画を見て、その様子を動きを表す言葉で伝える。</li> <li>3文程度の教師の話の聞いて、3場面の順番通りに、イラスト等を並べる。</li> <li>教師の話が理解できるように、手本を動画で見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の話が理解できるように、イラストを描いたり、動作で示したりしながら伝える。</li> <li>本児が気持ちや思いを言葉で表現した際には、「～だったのね。」と語り掛けて共感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しをもって取り組めるように、教師が手本を見せたり、言葉掛けをしたりする。</li> <li>初めてできたことや取り組んだことは、ノート等に言葉で書いたり、イラストを描いたりして振り返られるようにする。</li> <li>相手から感謝されたり、褒められたりしてやりがいを感じられる活動を設定する。</li> <li>教師が失敗する姿を見せて、誰にでも失敗することがあるということを教える。</li> </ul>

## II 指導の経過・結果

<指導期間：6月～12月>

指導の場	国語・算数・自立活動 いきいきタイム	教育活動全般	日常生活の指導
指導の実際 と子供の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や教師が映っている動画を見て、「ぼくが、ピアノを弾いた。」「〇〇先生が、顔を拭いた。」などと、誰が何をしたのかを答えることができた。</li> <li>教師の簡単な物語の話を聞いて、身近な名称やその物の動きを表す言葉を手掛かりに、イラストカードを順番通りに並べることができた。</li> <li>じゃがいもの植え方や収穫の仕方などを、教師の手本動画を見たり、教師の話を聞いたりして、活動内容を理解し、自分で取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の言葉をまねして、「〇〇ちゃん、泣かないでよ。怖いよ。」「〇〇くん、だめだよ。」「〇〇くん、止めてほしいってよ。」などと、自分や他者の気持ちを友達に伝えることができた。</li> <li>「朝の会に行きたくない。」「〇〇の授業、飽きちゃった。」などと、「〇〇したくない」という気持ちを言葉で教師に伝えることができた。</li> <li>友達の活動を見て、拍手をしたり、「上手だった。」と言ったりして、称賛することがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ靴下や靴を履くのか、なぜ給食では何でも食べなければならないのかなどと、「なんで？」と教師に尋ねることが増えた。教師がノートに書いて示したり、教材を作成して説明したりすることで、理由が分かり、行動に移そうとすることが増えた。</li> <li>事前に教師と一緒に一人であることを決めたり、手順表を見たりすることで、着替えや帰りの支度、おもちゃの片付け、歯磨きなどを一人で取り組んだりする。</li> <li>教師の簡単な手伝いとして、ゴミ捨ての係活動を行った。係活動の名前を「おたすけまん」とし、「おたすけまん」の腕章を用意したことで、意欲をもって取り組むことができた。</li> <li>「おたすけまん。ゴミ捨て係をお願いします。」と言葉掛けすると、自ら「おたすけまんの腕章」を腕につけて、ゴミ袋をゴミ箱から出し、ゴミ捨て場まで持っていくことができた。また、「おたすけまん、行ってきます。」「ただいま。」と自ら、大きな声で教師に伝え、自信をもって取り組むことができた。</li> </ul>
困難さの変容	<p>イラストや文字、動画などを活用した教師とのやり取りを通して、理解できる言葉や物事が増え、なぜそれをするのかの理由が分かり、自ら取り組もうとしたり、取り組むことでどのような良さがあるのかを本児自身が感じて取り組んだりすることができた。また、自分で取り組むことや教師と一緒に取り組みたいこと、自分ではやりたくないことが分かるようになったことで、自分の気持ちや思いを言葉で伝え、教師とのやり取りをするが増えた。</p>		

## III 子供の指導において効果的だったこと

### 1 イラストや文字、動画などを活用して、教師とのやり取りを行うこと

イラストや文字、動画などを活用して、教師とのやり取りを行うことで、活動への見通しをもち、自分のすることが分かり、活動に自信をもって取り組めることが増えてきた。本児が、「なんで？」と疑問に思ったことに対しては、教師が説明する時間を設定し、それらを活用して丁寧に教えることで、本児の理解につながり、本児の行動にも変容が見られた。

### 2 本児の気持ちを受け止めて、教師とやり取りしたり、一緒に過ごしたりする時間をつくること

本児が特に、「～したくない」という気持ちや思いを教師に伝えたときには、なぜ、それをしたくないのかを聞いたり、「～したくないんだね。」と語り掛けて共感したりした。その中で、やり取りをしながら、「このようにしたらいいのではないか。」という教師からの提案を受けて、取り組むことができるようになってきた。また、言葉で表現できずに泣いたり怒ったりしたときに、別室に移動して、話を聞いたり遊んだりして過ごし、同じ時間を共有することで、本児自身が自分の思いを受け止めてもらえた安心感をもち、自ら、気持ちを整理して、次の活動へと参加することもあった。

「自立活動の指導」の指導事例（小学部4年生 T児）

小学部4年1組 教諭 稲本 純子

I 指導について

①学習上、生活上の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きなキャラクターの名前は答えられることはあるが、「どれにする?」「何をしたい?」などの質問をされると黙ったり、その場から離れたりする。</li> <li>教師からやりたくないことを促されたとき、「きーっ。」と大きな声を出したり、頭を壁にぶついたりすることがある。</li> <li>遊び（特に、水を床にまいて滑るなどの感覚的な遊び）を終えることが難しい。</li> </ul>
②困難さの背景とその実態	<p>○理解できる動作や感情、状況などを表す言葉が少ない。 単語で要求を伝えることはあるが、質問に答えたり、教師からの要求などに「したくない。」「嫌だ。」などの気持ちなどを言葉で伝えたりすることが難しい。</p> <p>○物事の始まりや終わり、ルールや決まりなどの理解が難しい。 遊びを止めること、遊びのルール(時間ややり方)を守ることが難しい。</p>
③指導すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>動作や気持ちを表す言葉など、理解できる言葉を増やし、教師と一緒に好きな活動に取り組んだり、好きな物を介して遊んだりすることを通して、教師の働き掛けを受け入れ、自分の行動を調整したり、自分の気持ちを言葉で伝えたりする力を育てる。</li> <li>物事のルールや決まりを理解する力を育てる。</li> </ul>
④指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の働き掛けを受け入れ、自分の行動を調整したり、「○○で遊びたい。」「○○が嫌だ。」などの自分の気持ちを言葉で伝えたりする。</li> <li>物事のルールや決まりを理解する。</li> </ul>

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目選定された		<ul style="list-style-type: none"> <li>情緒の安定に関すること</li> <li>状況の理解と変化への対応に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者とのかかわりの基礎に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保有する感覚の活用に関すること</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの基礎的能力に関すること</li> <li>言語の表出と受容に関すること</li> </ul>

⑤具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちを文字や絵カードから選択したり、言葉で表現したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物事の始まりや終わり、決まりやルールを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の言葉や動作に合わせて、具体物やペーパースार्ट、などを操作したり、体を動かしたりする。</li> </ul>
⑥指導の場	国語・算数・自立活動・日常生活の指導・いきいきタイム	いきいきタイム・日常生活の指導	いきいきタイム・体育・音楽

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場	日常生活の指導	国語・算数・自立活動	いきいきタイム	音楽・体育
⑦指導内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな活動や遊びの中で、やりたいことやしたいことを聞きながら、教師と一緒に遊ぶ。</li> <li>教師の働き掛けを受け入れられずにいるときは「○○したくないんだね。」などと言葉を掛けたり、文字やイラストを書いたりして、本児の気持ちを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で順番を決めて課題に取り組む。</li> <li>写真やイラストを見たり、好きなキャラクター、ぬいぐるみを動かしたりしながら、動作や気持ち、物事の状態などを表す言葉を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の見本を見たり、合図や言葉に合わせてたりしながら、具体物を操作したり、体を動かしたりする。</li> <li>学習内容等を複数用意し、内容や順番を選択したり、自分で決めたりする。</li> <li>教師や友達と一緒に簡単なルールのある遊びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の合図や言葉掛けに合わせて、楽器を鳴らしたり、体を動かしたりする。</li> <li>複数の活動を用意し、教師と一緒に何をするのか決めて学習に取り組む。</li> </ul>

## II 指導の経過・結果（記録）

<指導期間：6月～12月>

指導の場	日常生活の指導	国語・算数・自立活動	いきいきタイム	音楽・体育
指導の実際と子供の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒にタブレット端末で好きなキャラクターの画像を見たり、キャラクターの絵を描いたりして遊んだ。そのときに「○○, 描く。」と言って、教師に好きなキャラクターの絵を描いてほしいことを伝えたり、「○○○, 茶色, 描く。」と描いてほしい色を教師に伝えたりした。</li> <li>・給食では、その日に食べたいふりかけの種類を自分で選ぶことができた。また、苦手な食材を教師が「○○を一口食べてから、△△を食べよう。」と提案をすると、教師の提案を受け入れて食べたり、時には、「一口たべる。」と言って、食べる量を減らしてほしいことを伝えたりすることができた。教師が「一口は少ないね。」と言うと「二口。」と自分から食べる量を増やして提案し直すなど、教師とやり取りしながら量を決めることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で課題の順番を決めたり、やりたい課題を教師に伝えたりすることができるようになった。また、「○○の課題を2枚したら、好きな△△の課題をしよう。」等の教師の提案に応じたり、課題の枚数や種類を教師と一緒に決めたりしながら、課題に取り組めるようになってきた。</li> <li>・イラストや写真を見ながら、「M, ~を○○する。」など3語文で話すことができるようになってきた。</li> <li>・「おこっている」等の感情を表す言葉や「ピアノひく。」など、身近な動作を表す言葉を使って話しをすることができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お話遊びでは、キャラクターが登場するとすぐに「ジャンププー。」等のキャラクターの名前を言ったり、キャラクターを倒すためにジャンプや投げキッスなどの動きをして体を動かしたりして遊ぶことができた。</li> <li>・乗り物遊びでは、複数の乗り物から台車を選び、台車に乗って教師に引っ張ってもらい遊びをしたり、自転車遊びでは、乗りたい自転車を自分で選んだり、「赤い自転車, 乗る。」など、乗りたい自転車を教師に伝えることができた。</li> <li>・カードゲームでは、自分のカードを引く順番やカードの枚数、遊ぶ時間など、イラストやタイマーなどを使用することで、遊びのルールを理解して、教師や友達と一緒にゲーム遊びをすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の手本を見て、音の鳴らし方やリズムを覚え、曲のリズムに合わせて、ベルハーモニーや太鼓を演奏することができた。</li> <li>・しっぽ取りの活動では、鬼役となって、友達のしっぽを取ったり、しっぽを取られないように鬼から逃げたりするなど、ルールを理解して教師や友達と一緒に遊ぶことができた。</li> <li>・ターザンロープでは、自分のしたい跳び方をイラストを見て選択したり、教師と目標を確認したりしながら、活動に取り組むことができた。</li> </ul>
困難さの変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやりたいことや欲しい物などを単語や2～3語の言葉で教師に伝えることが増えた。また、やりたくない活動等をスケジュールカードを外したり順番を変えて伝えたり、「○○, ばつ。」「○○, しない。」と言って言葉で伝えたりすることが増えた。</li> <li>・タイマーを使用して終わりの時間を示したり、文字やイラストなどを活用しながら、遊び方やルールを予め伝えたり、本児と一緒に決めたりしていくことで、スムーズに遊びを終えられるようになってきた。</li> </ul>			

### III 子供の指導において効果的だったこと

- 1 教師がやり取りしながら本児の気持ちを推測して言葉掛けをするとともに、文字、イラスト、タイマー等を用いて、本児と一緒に気持ちや状況、遊びのルールなどを確認したり、整理したりすることで、自分の気持ちや状況、遊びのルール等を理解しやすくなったと考えられる。
- 2 本児の好きな活動や遊びの中で、本児のしたいことややりたりことを聞きながら、一緒に遊ぶことや、それらの活動や遊びの中で、やりたい遊びや、使いたい道具などを選択したり、教師と一緒に活動を決めたりしていくことで、教師の働き掛けを受け入れることができるようになってきたと考えられる。

「自立活動の指導」の指導事例（小学部5年生 G児）

小学部5年1組 教諭 丸山 真幸

I 指導について

①学習上、生活上の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定時間注意を向けて課題に取り組むことが難しい。</li> <li>・道具などを操作することが難しい。</li> <li>・片足立ちの維持や中間位姿勢をとることが難しい。</li> </ul>
②困難さの背景とその実態	<p>○体性感覚に対する気付きや見る力が弱く、周りの刺激に注意がそれやすい</p> <p>自分の身体に入ってくる感覚に対する気付きが弱く、注意を向け、持続させることが難しいため、手元や足元を見ずに活動に取り組むことが多かったり、反応が返ってくるのが遅いとすぐに違う活動に移ろうとしたり、課題中に視線がそれたりする。</p> <p>○握る力が弱く、道具の意味を理解することが難しい</p> <p>物を操作した結果に対する気付きや物を適切に操作する経験が少なく、道具の意味を理解して使用したり、道具に働き掛け続けたりすることが難しいため、ばち等の道具を持ってもすぐに離してしまう。</p> <p>○適切な体の動かし方や力の入れ方が分からない</p> <p>自分の身体の状態を感じて動きを調整したり、修正して動き直したりして、適切に体を動かしたり力を入れたりすることが難しいため、片足立ちを維持することや、中間位姿勢をとることが難しい。</p>
③指導すべき課題	<p>物を一定の方向に動かす力が育ってきているので、物や自分の身体を動かしたことへのフィードバックを感じながら、手元に注目して物を操作する活動や腕、肩、腰などに適切な力を入れて動かす活動をするを通して、「自分でできた」という実感を味わえる経験を積み重ねていきたい。</p>
④指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師との身体を介したやり取りを通して、適切に力を入れたり、身体を動かしたりするとともに、手元に注目しながら課題を行うことができる。</li> </ul>

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目			<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかかわりの基礎に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有する感覚の活用に関すること</li> <li>・感覚を総合的に活用した周囲の状況の理解に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの基礎的能力に関すること</li> </ul>

⑤具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師とのやり取りを通して、自分の身体に注意を向けて、余分な力を抜いたり、適切な力を入れて動かしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目で見ながら手や腕の動きを調節し、物を操作する。</li> </ul>
⑥指導の場	国語・算数・自立活動	国語・算数・自立活動

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場	国語・算数・自立活動	国語・算数・自立活動
⑦指導内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余分な力を抜き、リラックスした状態になるように、教師が、力が入っている部位にゆっくり触れたり軽くもみほぐしたりする。</li> <li>・教師の合図と身体援助を受けながら腰に適切な力を入れたり、滑らかに腕を上げたり下ろしたり曲げたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師に提示された具体物を見てから手に取り、課題を遂行するようにする。また、明らかに形状の異なる具体物を提示し、見分けて穴に入れる課題を行う。</li> <li>・操作する道具を指さし、始まりの場所を伝えたり、視線がそれたときは、操作する手を教師が握ったり指さして示したりして、視線を課題に戻すようにする。</li> </ul>

## II 指導の経過・結果

<指導期間：6月～12月>

指導の場	国語・算数・自立活動	国語・算数・自立活動
指導の実際 と子供の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手首，肩，腰などの力が入っている部位に，「ダランだよ。」の言葉掛けをしながら触れることで，自分で力を抜くことが増えてきた。</li> <li>・膝を立てた仰向けの姿勢で，教師の身体援助と「せーの。」の言葉掛けを受け，腰を自分で上げることができた。</li> <li>・教師が本児の腕を持ち，肩方向に少し圧を加えると，自分の腕に注目した。その上で「こっちに動かしてごらん。」の言葉掛けと腕を動かす方向を教師が手を添えて伝えると，自分で力を入れて動かすことができた。動かす力が強いときに，身体を通して力加減を伝えると，それに合わせて動かすことが増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペグとリングの入れ分け課題では，6月当初は，入らなくても一つの入れ物に入れ続けていたが，7月頃には，入らないと，自分で入らないことに気付いてもう一方の入れ物に入れることができるようになった。11月頃になると手を止めて入れる場所を目で確認してから入れるようになった。</li> <li>・輪抜き課題では，輪が軸に引っかかって抜けないときに，教師が本児の手首を軽く握り，視線が向いたときに一緒に動かして確認することを繰り返すと，手元を見ながら輪をスムーズに動かすことができるようになってきた。12月頃には，教師が直接身体に触れずに握っている手を指さしながら軸に沿って動かすと，その動きに合わせてついてくることがあった。</li> </ul>
困難さの変容	<p>教師と身体を介したやり取りを通して自分の身体を意識して動かすことを行ったことで，以前よりも課題に取り組む時間が長くなった。また，様々な物に働き掛け続けることが増え，ばちを持ち続ける等，道具を使うこともできてきた。入ってくる感覚を基に動きを調整したり，修正したりする力も付いてきたが，片足立ちを維持することや中間位姿勢をとることに對する変容は大きくは見られなかった。</p>	

## III 子供の指導において効果的だったこと

### 1 自分の身体に入ってくる感覚への気付きを高めたこと

腕を動かす課題では，教師が手を添えて肩の方向に少し圧を加えることで，腕に注意を向けながら動かすことができ，普段自分で動かすときよりも入ってくる感覚に意識を向けることができた。このような教師と身体を介したやり取りを繰り返し行うことを通して，自分の身体に入ってくる感覚への気付きが高まり，以前よりも「自分でできた」という実感を味わうことができた。そのことにより，以前よりも注意を向ける時間が長くなったり，物へ働き掛け続けたりすることができるようになった。そのため，課題に取り組める時間が長くなったり，ばちを持ち続ける等の道具を使用する様子が見られたりするようになった。

### 2 感覚に働き掛ける教材を用いたこと

輪抜き課題や入れ分け課題は，抜けないときと抜けたとき，入ったときと入らなかったときで自分に入ってくる感覚が違う課題となる。手に持っている輪、ペグ、リングが入ることで，入らないときに感じられる固有感覚がなくなり，入ったことを理解することができる。これらの課題を用いたことで，自分の身体に入ってくる感覚を基に物を動かした結果を判断することができ，活動の終わりやまとまりの理解につながった。「どうなったら終わりなのか」が分かることで，終わっていない状態を理解することができ，終わりに向かうために目を使って動きを調整しながら物を操作することができるようになってきた。

「自立活動の指導」の指導事例（小学部6年生 H児）

小学部6年1組 教諭 久野 智宏

I 指導について

①学習上、生活上の困難さ	・活動や相手の様子に合わせて自分の言動を調整することが苦手である。
②困難さの背景とその実態	○自分の決まったやり方や人との関わり方がある。 「Aの場面にはA'のこと」等、言葉の使い方や行動のレパートリーが少ない。 ○言葉の使い方や行動の調整が難しい。 してはいけないことの原因を理解していても、行動や言動を調整することができずに、同じことを繰り返し、友達ともめたり、教師から注意をされたりすることがある。また、第二次性徴に伴い異性への興味が出始め、触れようとしたり、音に過敏な反応をして、突発的な行動をしたりすることが増えてきた。 ○気持ちが高揚すると言葉掛けを理解することが難しくなる。 相手が自分の期待する反応をしてくれなかったり、注意をされたりすると気持ちが高揚し、同じことを繰り返してしまう。落ち着いた状態であれば理解できる教師の言葉掛けも気持ちが高揚すると理解できなくなり、笑い続けてしまう。
③指導すべき課題	自分の気持ちを教師や友達に伝え、自分の願う反応を期待するだけでなく、教師や友達の気持ちや提案を受け入れて自分の言動を調整する力を育てたい。そのために、相手の言葉を最後まで聞くことや、自分と相手の視点を入れ替えて考えることができるように、物事を様々な視点から捉えることを指導していきたい。
④指導目標	・相手の気持ちや周囲の状況を理解して、自分の言葉の使い方や行動を調整する。

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目		・状況の理解と変化への対応に関すること	・他者の意図や感情の理解に関すること ・自己の理解と行動の調整に関すること	・感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること		・コミュニケーションの手段の選択と活用に関すること ・状況に応じたコミュニケーションに関すること

⑤具体的な指導内容	・様々なやり方や解き方がある課題に取り組む。 ・自分の経験したことや気持ちを言葉で表現する。	・友達や教師と一緒に活動をする。 ・教師の話聞いて、活動内容や質問の意図を理解して活動に取り組む。	・教師と一緒に文字や言葉などで相手の気持ちや状況を整理し、望ましい働き掛けの方法や気持ちを落ち着ける方法を確認する。
⑥指導の場	国語・算数・自立活動	いきいきタイム 休み時間	自立活動 教育活動全般

各指導の場における指導内容・方法の設定

指導の場	国語・算数・自立活動	いきいきタイム	休み時間	自立活動・教育活動全般
⑦指導内容・方法	・複数の立体図形を組み合わせて、立方体を作る。 ・間違い探して、違うところを教師に説明する。 ・自分で撮った写真の様子を文字や言葉で表現する。	・友達と一緒に同じ目的に向かって活動する。 ・教師の活動内容の説明を聞き、大事なことは何かを教師と一緒に確認し、行動を調整する。	・必要に応じて教師が友達の様子や表情を言葉にして伝え、自分で言動や行動を調整するきっかけを作る。	・友達とのやり取り等の状況や自分と相手の気持ち、自分が話したことを文字にして表す。 ・本児の話したことに共感し、本児の気持ちを文字や言葉で整理する。

## II 指導の経過・結果

<指導期間：6月～12月>

指導の場	国語・算数・自立活動	いきいきタイム	休み時間	自立活動・教育活動全般
指導の実際と子供の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>立方体を作るパズルでは、完成図だけを見ながらパズルを組み合わせ、上手くはまらないときは、様々な方向から立体を捉えて、様々な順番や方法でパズルを組み合わせることができた。</li> <li>間違い探しでは、二つの絵を見比べて違うところを「大一小」等の対関係を表す言葉を使い教師に違うところを言葉で説明できた。</li> <li>自分が撮った写真を見て写っている物や場所、人の名前を言葉にし、そのときに自分が抱いた気持ちを文字で表現することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行の事前学習で行ったちくわ作りでは、友達と横一列に並んで、粘土でちくわを作ったり、教師の合図を聞いてから友達と一緒に色を付けたりができた。</li> <li>行事の発表では、「発表するときは500円の声で。待っているときは1円の声で。」と本児が分かりやすい言葉に絵を添えて説明すると、それに合わせて声の大きさを調整することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本児が友達に「〇〇くん、ぎゅーして。」と言い、友達から「いやだ。」と言われたときに、教師が「〇〇くん、嫌なんだって。他の遊びにしたら？」と提案すると友達に好きなキャラクターを見せて話すことができた。</li> <li>教師と友達が広場で追い掛けっこをしていると、「〇〇先生、△△くん、一緒に来て。ここにいて。」と言い、遊びに加わりたいと伝えた。</li> <li>気になることがあるときに、好意がある女兒に「〇〇さん、あっちいけ。」と言うことが11月から増え始めた。教師が「何か気になることあるの？」と尋ねると「〇〇が気になる。」と気になることを教師に言葉で伝えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本児が教師の言葉掛けの意味が分からなくなるほど気持ちが高揚した際に、静かな場所に移動した。ノートにそのときの状況や自分と相手の気持ち、望ましい関わり方を文字にして教師と一緒に考えて、確認した。気持ちが落ち着くと書いた文字に視線を向け、話を聞くことができた。</li> <li>他の友達が活動に参加せず、離れた場所にいると「〇〇さんも一緒にやろう。」と言言葉で友達を誘い掛けることができた。</li> </ul>
困難さの変容	<p>教師が本児の気持ちや行動に共感しながら、望ましい関わり方を繰り返し伝えたことで、言葉で友達とやり取りすることが増えてきた。また、友達を活動に誘い掛ける等、表現に広がりが見られた。友達や教師の大きな反応や注目を求めるために、同じ関わりを繰り返すことは少なくなった。しかし、自分が不快な気持ちを抱いたときに、好意がある友達に向かって「あっちいけ。」と伝えることが増えた。教師が気になることを尋ねると何が気になるかを教師に言葉で伝えることが増えてきた。</p>			

## III 子供の指導において効果的だったこと

### 1 情報を整理して繰り返し伝えたこと

本児は「Aの場面にはA'のこと」のように、一つの場面にに対して決まったことをすることが多かった。人との関わりでも、自分の期待する反応が返ってくるまで、相手が困るような働き掛けを繰り返すことがあった。教師がそのときの状況や本児の働き掛け、それを受けた相手の気持ちを時系列で文字や絵で表し、整理して繰り返し伝えたことで、状況や相手の様子に合わせて、行動を調整することが増えた。

### 2 やり取りの成功体験を重ねること

本児は、教師に注意されたり、友達ともめたりしたことの記憶が消えにくく、言葉の使い方や行動のレパトリーが少ないことが実態として挙げられた。教師は、本児が相手を困らせるような働き掛けをした際に望ましい働き掛けに言い直したり、望ましい働き掛けができたなら言葉で称賛したりして、やり取りの成功体験を重ねるようにした。転んだ教師に「大丈夫？痛いね。」と心配する等、相手を気遣う様子が見られ、言葉の使い方や行動のレパトリーが増えてきた。

(4) 自立活動の授業づくりのまとめ

今年度の自立活動の授業づくりをするに当たって、平成 30 年度の研究で取り組んだ「自立活動の指導課題を導き出すプロセスとポイント」を基に、流れ図を活用しながら、幼児児童一人一人の指導課題を導くことに取り組んだ。そこで、「流れ図」を活用して、幼児児童一人一人の指導課題を導き出すこと、実際の指導の経過から子供の指導について効果的だったことについてまとめる。

(ア)「流れ図」を活用して、幼児児童一人一人の指導課題を導き出す

今年度の研究では、平成 30 年度の研究で取り組んだ「自立活動の指導課題を導き出すプロセスとポイント」の考え方を基に、学級担任全員で子供たちの指導課題について考え、幼児児童一人一人の指導課題を導き出した。教師一人が指導課題までを導き出してから学級担任同士で見合うのではなく、学級担任全員で子供の困難さと、その理由や背景を明らかにし、指導課題を導き出して個別の指導計画に反映させるという流れで取り組んだ。研究日の中では、学級で対象の子供を 1 名決めて、研究部が時間配分をしながら、「流れ図」の項目ごとに付箋に書き出したり、まとめたりして進めていく演習形式で取り組んだ。その後、それぞれの学級で、学級の他の幼児児童についても同様に行うこととした。

演習後に、幼稚部 3 学級、小学部 6 学級、計 9 学級にアンケートをとった。

アンケートの項目については、

- ・研究日で行った演習について、よかったことと難しかったこと
- ・「流れ図」を作成したことを通して、よかったことと難しかったこと
- ・個別の指導計画の作成に生かすことができたか

である。それぞれの学級に自由記述で回答をしてもらった。集計については、自由記述の中から、類似している内容をまとめ、整理することにした。

①「流れ図」の作成の演習を通して

研究日に演習をしながら、幼児児童一人一人の指導課題を導き出す「流れ図」の作成を行ったことについてのアンケートから、研究日の進め方と「流れ図」の項目内容について意見が出された。

表 4 は、研究日の進め方についての意見の一部である。

表 4 アンケートから研究日の進め方についての意見の一部

よかった点	難しかった点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの項目について、一人で考えるのではなく、学級で様々な意見を出し合い、共有できたことがよかった。</li> <li>・みんなで共有できた。</li> <li>・子供のことをよく考えられた。</li> <li>・複数の教師の視点で、子供の姿を出し合うことで、自分の気付きと同じ点、自分が気付いていなかった子供の姿を知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間の中で、子供の課題を書き出して整理するには大変だった。</li> <li>・時間が足りなかった。</li> <li>・たくさんの困難さの中から一つをピックアップすることが大変だった。</li> <li>・準備する時間がほしかった。</li> <li>・理想は、他学級、担任以外の教師や保護者などと仮説を立てていくことも必要ではないか。</li> </ul>

今回、1 時間の中で、各学級に白紙と付箋を配布し、各項目で時間を区切りながら演習を行った。(P8 の図 3 指導課題を導くプロセスの考え方を参考にし、P9 の図 4 「流れ図」の項目を参照。) 学校で生活している間、教師一人が特定の子供一人に対応しているわけではないので、学級担任一人一人が知っている子供の行動や言葉などは異なり、また子供の表情や行動、声や言葉の理由などについても教師一人一人が感じたり、考えたりすることは異なる。そのことから、今回、教師一人一人が付箋に自分の意見を書き、出し合うことで、自分の知らなかった子供の一面を知ることができること、また、同じ学級の教師の考え方や捉え方が様々であることを知る機会となった。担任間で相手の教師との違いを知ること、一人の子供ことを多面的に捉えることができ、より共通した視点をもって子供に対応することにつながった。

一方で、研究日という限られた時間内では、意見を整理していくことが難しいという意見も出された。事前に資料を配付したり、項目の確認をしたりすることで限られた時間内でも意見が十分に出せるようにしたり、研究日の時間を2時間に設定し、出された意見を集約・整理できるようにしたりすることは今後検討していく必要がある。

次に、「流れ図」の項目内容についての意見の一部である。

表5 アンケートから「流れ図」の項目内容、考え方についての意見の一部

よかった点	難しかった点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの項目ごとに、ポイントがあったので、何を考えるべきか分かりやすかった。</li> <li>・「子供が主語になる」など、視点のもち方が分かりやすかった。</li> <li>・子供の視点から困難さを考えることができた。</li> <li>・担任間で共通理解しながら書き表すことで、児童の困難さを整理しやすくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れ図を理解できていないまま進めてしまった。</li> <li>・新任教師2人では難しかった。</li> <li>・児童の実態や指導すべき課題などが妥当なのかという疑問があった。</li> <li>・困難さを考えるときに、子供の視点で表現することが難しかった。</li> <li>・困難さと困難さの理由を整理していくことが難しかった。</li> </ul>

平成30年の研究で明らかになった指導課題を導き出すプロセス（図2参照）とポイントに沿って幼児児童一人一人の指導課題を導き出すことに取り組んだ。「流れ図」を活用して指導課題を導くことが初めての教師も多くいたため、一つの項目ごとにポイントを押さえ、付箋に書く具体例を挙げながら演習を行うことにした。

例えば、①幼児児童の学習上又は生活上の困難さを把握するためのポイントは以下の3つであった。

- ・子供の立場に立って明らかにすること
- ・子供の日頃の様子（事実）から整理すること
- ・日常、関わっている教師だけでは見えないこともあることを考慮し、複数の教師で話す機会をもつと、生活全体が見えてくることもあること

このようにポイントを具体的に示すことで、初めて取り組む教師にも考えやすくすることができた。

例えば、一つ目の子供の立場に立って明らかにするという事は、「ぼくは～をする。」「ぼくは～ができない。」など、子供を主語にして書き出すことを確認することで、子供の表情や行動、言葉などを、教師の視点から子供の視点に置き換えて考えることができた。二つ目の子供の日頃の様子から整理するという事は、子供の表情や動き、発した声や言葉の事実をそのまま書き出すことが重要であることを確認した。例えば、「ぼくは、先生の話す言葉が分からない。」と書くと、すでに教師が子供の表情や動き、言葉などから理由を分析して書いていることになるので、この場合は、「ぼくは、先生から話し掛けられたときに、その場から立ち去ったり、大きい声を出したりしてしまう。」などと事実だけを書くようにすることを確認した。具体例を示し、考える視点を共有して進めることで、学級の教師で話し合いながら子供の日常の表情や動き、発声や言葉などを整理することができた。また、子供の困難さの理由についての疑問が出てきたときに、子供の实態を教師自身が知らないことを実感し、日常の中で探ったり、確かめたりするきっかけにすることができた。

一方で、考えるポイントや具体的な例が提示されても、子供の困難さを考えることは難しい。子供の困難さを把握するときに、例えば、「子供が遊びをやめられない。」と付箋に書いたとする。これは教師の視点での困っていることなので、子供が困っている視点に置き換えると、「ぼくは、遊びたいのに、遊んでいる途中で先生におもちゃを取られて、泣いてしまう。」と考えることができる。この視点の変換は教師一人では難しいこともあるため、一緒に考えている複数の教師で子供の状況を考えて、「子供は何に困っているのか？」について検討していく必要がある。この視点の置き換えは、すぐにできることで

はなく、一つ一つについて、「これでいいのか。」と不安になることも多い。また、明確な正解はここにはない、ということも事実としてある。そこで、「流れ図」を活用した考え方の経験がある教師が、アドバイザーになって教師の考えを聞きながら進めていくことができる環境が必要である。またこの時点で、教師自身が、子供の困難さに気付くことができている自分自身を自覚することで、今後、子供の立場に立つ視点を意識した関わり方につながるきっかけになると考える。

②「流れ図」を作成したことを通して

次の表6は、「流れ図」を作成してよかったことの一部である。

表6 アンケートから「流れ図」を作成したことを通してよかった意見の一部

よかった点	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難さ、背景を実態として深く掘りさげたことで子供理解が深まった。また、困っている様子から「なぜだろう」と考える癖がついた。</li> <li>・子供の実態が明確になり、担任全員で共通理解することができた。</li> <li>・子供のことを、個人の教師の視点だけではなく、学級担任みんなで話して指導課題を導くことができたことがよかった。</li> <li>・3人で課題を共有し、それを考えながら指導に当たるようになった。</li> </ul>

よかった点で多く上がったことは、流れ図を活用しながら、学級担任全員で、子供の困難さや困難さの理由を考えたり、話し合ったりすることで、子供の課題や実態の共通理解をすることができたということであった。日々の指導では、教師一人一人が子供の様子を見て、その子供の言動の理由や教師がどのように関わるといいのか試行錯誤をしながら子供とやり取りすることが多い。研究に取り組む中で、学級担任全員で子供の話をすることを通して、子供の表情や動き、声や言葉などの理由に気付きやすくなったり、子供への関わり方をいくつか試したりすることができるようになってきた。自分自身の関わり方だけでは、子供の思いを汲み取ることが難しいことがあったとしても、他の教師の意見を参考に関わり方を変えることで、子供がやり取りに応じてくれる可能性が広がる。

このことから、一人の教師の子供の見方だけではなく、子供と関わっている学級担任全員で子供のことを考えることが重要であるといえる。また、学級担任全員で子供一人一人の指導課題を導き出すことにより、子供の表情や動き、声や言葉などの表現の理由を共有し、共通の指導内容や方法を確認することができたことで、実際の指導場面において、教師が共通のねらいをもった関わり方ができたり、子供が新しい行動などをしたときにも「なぜ、この行動をしたのだろうか」と考えたりすることにつながったと考えられる。

次は、「流れ図」を作成して難しかったことの一部である。研究日の進め方（「進め方」と表記）と「流れ図」の項目内容（以下、「項目内容」と表記）の2つについて意見が上げられていたので、まとめて述べる。

表7 アンケートから「流れ図」を作成して難しかったことの一部

難しかった点	
進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れ図自体を理解することが難しかった。</li> <li>・たくさん困難さが出てきて、どの困難さを選択するべきか迷った。正しい方法ではないと思うが、指導目標から考えた部分もあった。</li> <li>・経験者が全くいないと書くことが難しいと思う。</li> </ul>
項目内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害特性、困難さを出すことが難しく感じた。得意なこと、好きなことが項目として一番上にあると、指導すべき課題としても反映させやすいと思った。</li> <li>・大人が困っていることはたくさんあるが、子供が困っていることを考えることが難しかった。</li> <li>・「困難さの理由」や「困難さの背景と実態」の区別を付けることが難しい。</li> <li>・困難さから指導すべき課題を導いたときに、その困難さの原因が子供の発達の要因なのか、教師の関わりが要因なのか、だんだんと分からなくなった。</li> </ul>

「流れ図」は、子供の指導課題を導くための一つの方法であり、項目に子供の情報を当てはめることが目的ではなく、子供の実態を整理し、指導課題を導き出すために活用することを、教師全員に十分に

共通理解する必要があった。この方法以外に、教師が子供の指導課題を導き出すことができればよいのであるが、子供の指導課題を導き出すことはとても難しいことである。「流れ図」は、教師の経験等に関わらず、子供の指導課題を導き出すために、子供の実態を整理したり、教師が順序立てて考えたりするために、活用する手段であることを共通理解する必要があるといえる。

項目内容については、項目を理解することの難しさが多く指摘された。今回は、研究日に1時間の演習を設定したため、子供の実態を整理する時間を設けず、子供の学習上又は生活上の困難さから考え始めることにした。特に幼稚部の子供たちについては、子供の困難さが見えにくい、子供が抱えているだろう困難さが、障害特性なのか、年齢なのか、性格なのかが分かりにくい、という意見が上げられた。低年齢の子供の困難さを考えるときには、まずは、日常生活の中での、子供の動きや声、言葉などから考えられる困難さをたくさん挙げる必要がある。その後、子供の視点に置き換えて困難さを考えていく。そのときに困難さの理由には踏み込まず、子供が表現している言動からできるだけ簡潔に取り上げていくとよいのではないか。また、子供の困難さの理由や原因を探る段階で、理由として考えられる様々なことをその後の日常生活の中で検証していくことが必要である。

### ③個別の指導計画に活かすことについて

最後に、個別の指導計画に活かすことができたかについての回答である。

表8 個別の指導計画の作成に活かすことができたかについての意見の一部

よかった点	難しかった点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の自立活動の部分に反映させることができた。</li> <li>・流れ図を作成したことで、子供の中心となる目標や育てたい力を考えやすかった。</li> <li>・直接活かすことは難しかったが、子供の困難さや課題を繰り返し学級の教師と話すことで、指導方針の柱は固まっていたような気がする。</li> <li>・流れ図で子供の実態や課題を整理することで、個別の指導計画につながったと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れ図を個別の指導計画に活かすために、もう少し時間がほしかった。</li> <li>・指導課題のキーワードを押さえることができたが、個別の指導計画は文章で記入するため、文章表現は難しかった。</li> </ul>

9学級中5学級が、個別の指導計画の作成に活かすことができたという意見だった。流れ図を作成し、完成させることが大切なのではなく、流れ図を使って手順に沿って整理しながら考えることで、子供の指導課題を導き出しやすくなり、子供の実態を理解した上で自立活動や各教科等の目標を立てることができたと考えられる。今後は、個別の指導計画を作成するための時間を設定するとともに、指導課題につながるキーワードを挙げるのではなく、各学級の話し合いを通して、キーワードを文章にすることにも取り組んでいくことができるとよい。学級に配属されている教師の経験も踏まえ、どのくらいの検討時間が必要か、どこまでの子供の情報を学級全員で共通確認する必要があるのかについて検討していくことが大切である。

### (イ) まとめ

アンケートから分かったことは、「流れ図」という一つの方法を使ったからといって、すぐに子供の指導課題を導き出すことは難しいことである。「流れ図」は、子供の実態や自分の思考を整理しながら子供の課題に迫る方法である。子供の抱える困難さについては、表面に見えている部分はごく一部分であり、見えていない大部分に理由や原因がある。私たち教師は困難さの理由や原因を探り、子供一人一人が本当に困っていることや、願っていることに対して働き掛けていくことが教育のポイントと考える。そのために、子供と関わる複数の教師の視点で、子供の実態を捉えて、子供の困難さの理由や原因を明らかにし、育てたい力を設定することが大切である。

また、「流れ図」を使って考えるときには、「流れ図」の項目で使っている言葉の意味を一つ一つ確認し、共通理解することが必要である。子供の情報を項目に当てはめて記述するだけでは、子供の困難さ

から指導課題を導き出す手順は理解できても、子供の困難さの理由や原因が明らかになったり、指導課題の優先順位が定まらなかつたりする。学校は、様々な経験や知識をもつ教師が集まっている組織であるからこそ、いくつもの具体例を示し、手本となるような考え方を提示することを通して、教師自身が子供の新しい側面に気付いたり、発見したりできるようにしていくことが必要である。

(ウ) 今後の課題

今後の課題は、以下の2点である

- ・「流れ図」は、子供の指導課題を導くための一つの方法であり、子供の実態を整理し、指導課題を導き出すために活用することを共通理解すること
- ・「流れ図」の項目内容について、言葉の意味や考え方を確認し、共通理解しながら整理すること



## ②子供の指導において効果的だったこと

自立活動は、個々の幼児児童の障害による学習上又は生活上の困難を改善するために行う指導である。各学級の指導事例を整理、分析すると、困難さにくいつかの共通する特徴があること、また、その特徴に対して共通する指導のポイントがあることが明らかとなった。各学級の指導事例の困難さ、困難さの背景とその実態、指導について効果的だったことを整理し（別紙資料 P55）、困難さの特徴を分析すると以下のようになった。

### （ア）幼稚部について

#### ①相手からの関わりに気付かない子供への指導のポイント

ひよこ組のA児は、教師や友達などの相手からの関わりに気付かないという困難さがあった。一方で、A児は教師に抱きかかえられてぐるぐる回してもらい遊びや、くすぐり遊びなど自分の好きな遊びをするときには、笑顔になり声を出して楽しい気持ちを表現したり、自分から教師に近付いて視線を合わせたりするなど教師を意識した行動が見られた。

そこで、まずは、身近な大人と一緒に好きな遊びをすることを通して、相手からの関わりに気づき、楽しい気持ちやうれしい気持ちを感じる経験を増やすことを目標に指導した。指導の場は、遊びの時間を中心に行った。

A児への指導について効果的だったことは、まずは、A児の好きなトランポリンやブランコの遊具を使った遊び、追い掛けっこやぐるぐる遊び、くすぐり遊びなどのA児が好きな遊びを本児が満足するまで十分に組み込んだことである。教師と一緒に遊ぶ中で、教師が自分の遊びたいことを受け入れてくれる存在であると気づき、自分から教師に期待して近付いたり、教師の手を引いて、自分のしてほしい遊びを自分の伝えられる方法で伝えようとしたりすることが増えてきた。また、A児に関わる時は、A児の正面から視線を合わせて名前を呼んだり、A児の視線の高さに写真や具体物を提示したりしていた。併せて、遊んでいるA児の様子に合わせて、「楽しいね。」などの言葉掛けをした。教師が正面から視線を合わせたり、言葉掛けや身振りをすることで、一緒に遊んでいるときに、自分から教師に視線を向けたり、顔を覗き込んだりすることが増えてきた。

このことから、相手からの関わりに気付かないという困難さをもつ子供への指導のポイントは以下のようによまとめることができる。

- ・子供の好きな遊びや好きなことに合わせて、十分に関わること
- ・子供の正面から、言葉掛けをしたり、身振りで表現したりして関わること
- ・子供の様子に合わせて、共感的な言葉を掛けること

#### ②自分の思い通りにならないこと、やりたくなしことなどを促されると、泣いたり、物を投げたりする行動で表現する子供の指導ポイント

次に、ひよこ組のA児、りす組のB児、うさぎ組のC児は、自分の思い通りにならないこと、やりたくなしことなどを促されると、泣いたり、物を投げたりする行動で表現し、自分の本当に伝えたいことを実現できないという困難さがあった。具体的には、A児は、明瞭な発語がなく、自分の気持ちに伝えてもらえないときには感情が高ぶって泣いたり、嫌なことがあると相手をつねったり、押したりする行動が見られた。B児は、嫌な気持ちや悲しい気持ちになったときに、泣いたり、物を投げて感情を表現していた。C児は、苦手なことや嫌なことに対して、「ばいばいしー。」と言葉で言って相手からの関わりを拒んだり、思っていることと逆のことを言ったりしていた。A児への指導については上記で述べたので、ここでは、B児とC児の指導の要点を述べる。

B児への指導では、B児の好きな絵本や遊具を介して、B児の好きな遊び方で教師と一緒に遊んだり、

教師と交互に言葉でのやり取り遊びや体を使った追い掛けっこなどに取り組んだ。教師が子供の好きな遊びと一緒に楽しむことを通して、教師に笑顔で視線を合わせ、声や指さし、身振りで「もう一回やってほしい」という気持ちを伝える行動が増えた。教師からの提案や促しに応じたくないときには、「ちがう。」「いない。」など言葉で答えることも増えてきた。

C児への指導では、まずは、安心して活動するために、C児にとって分かりやすい身振りや表情、擬態語を使用して活動内容を伝えたり、活動の前に手本となる動画を提示したりして、教師はC児が理解できるように関わった。そのことで、新しい活動が始まるときにも、自分から着席して教師の話聞き、活動内容を理解して取り組むことが増えた。また、教師がC児に分かるように具体的にしてほしいことを伝えるようにしたことで、自分から靴を履くなど教師からの提案を受け入れることが増えた。さらに、教師がC児の好きな絵本やアニメの話題をもとに再現遊びを行うことで、C児から教師を遊びに誘うようになったり、そのやり取りの中で言葉を覚え、日常生活の中でも使用したりすることが増えた。

これらのことから、自分の思い通りにならないこと、やりたくなしことなどを促されると、泣いたり、物を投げたりする行動で表現することに困難さがある子供への指導ポイントは、以下のようにまとめることができる。

- ・子供の好きな遊びを、子供の好きな遊び方で一緒に遊ぶこと
- ・子供に分かるような言葉や身振り、表情で表現して子供が理解できる方法を使いながらやり取りをすること
- ・教師が子供にとって一緒に遊ぶことが楽しいと思える存在になること

#### (イ) 小学部について

##### ①感覚に関する課題がある子供への指導のポイント

小学部1年生のD児は、常に動いていて、じっくりと活動に向かったり、休んだりすることができず、身近な大人とのやり取りを通して、新しいことを学ぶことが難しいという困難さがあった。小学部5年生のG児は、一定時間注意を向けて課題に取り組むことが難しく、物や道具の用途を理解することが難しく、自分の力を発揮する場面が限られていた。D児、G児ともに、感覚に関する課題があることがあげられており、共通して、物をよく見ること、教師と一緒にまたは一人で物を操作することが目標に指導した。

D児への指導では、まずは、教師が正面から、視線を合わせて関わった。教師がD児の名前を呼び掛けたり、着替えの袋を目の前に提示したりすることで、教師からの働き掛けに気づき、教師に視線を向けたり、提示した袋を見せると自分から服を脱いだりするようになった。次に、回転や揺れなどの感覚に訴える遊具を使った遊びを十分に行ったことで、自己刺激行動が軽減し、教師の顔を見ながら腕を引いて「やりたい」という要求を伝えたり、揺れが止まると教師の腕を引いて「もっとやってほしい。」と何度も要求したりするようになるなど、様々なことを学ぶことが増えてきた。

G児への指導では、まずは、教師と身体を介したやり取りを通して、G児が動かす身体部位や相手からの関わりに気付くように言葉掛けをしたり、直接触ったりするなどの働き掛けをした。手首・肩・腰などの力が入っている部分に教師が「だらん、だよ。」と言葉掛けをしながら触れることで自分から力を抜くことが増え、自分の体への関わりに気づき、その関わりを受け入れて動かそうとするようになった。そうした教師の働き掛けに応じる中で「自分でできた」という実感を味わい、物に向かう時間が長くなったり、物へ働き掛け続けたりすることができるようになり、分かることが増えた。

このことから、落ち着いて活動に向かうことが難しい、自己刺激が多い、物をよく見たり、操作したりするなど感覚に関する困難さがある子供への指導のポイントは、以下のようにまとめることができる。

- ・相手からの働き掛けに気付きやすいように正面から関わること
- ・教師と身体を介したやり取りをしながら、子供が自分の体に意識を向けて、体の力を抜いたり、入れたりして動かすこと
- ・子供の課題に応じた感覚に働き掛けるための教材を使用すること

### ②自分の思いや気持ちを相手に伝わる言葉で表現することが難しい子供への指導のポイント

小学部3年生のE児、小学部4年生のF児はともに、自分の思いや気持ちを相手に伝わる言葉で表現することが難しいという困難さがあった。

E児への指導では、まずは、本児が自信をもって活動に取り組むために、イラストや文字、動画等を活用して、教師とやり取りを行った。E児が疑問に思ったことについて、ノートに書いたり、教材を作成して説明したりしたことで、理解できる言葉が増え、物事の理由が分かり、自分から行動することが増えた。また、事前に教師とやり取りしながら、自分がやることを決めたり、手順表を見たりすることで、一人で取り組むことが増えた。また、「おたすけまん」という係の名称や腕章など、やりたいけどやれないかもしれない、頑張りたいけど頑張れないかもしれないというE児の気持ちを支える教材を活用したことで、自信をもって意欲的に取り組むことができた。次に、教師が、E児が、「～したくない」という気持ちを教師に伝えたときには、その気持ちを受け止めてから、理由を尋ねるようにしたり、やり取りしながら、E児自身が気持ちを整理する時間を作ったりした。教師が、別の活動の選択肢を提案することや、自分の思いを受け止めてもらえる安心感をもつことで、自分の気持ちや思いを言葉で伝えながら教師とやり取りすることが増えた。

F児への指導では、まずは、F児の好きな遊びの中からF児がやりたい遊び、使いたい道具を選んだり、教師が交渉しながら一緒に決めたりした。複数の乗り物の中から自分で選択し、教師に「赤い自転車乗る。」と言って伝えたり、課題の順番や、やりたい課題の量を教師と交渉しながら決めたりして、落ち着いて取り組むことが増え、拒否ではなく、他の提案を受け入れる力が身に付いてきた。次に、文字やイラストを用いてF児の気持ちや状況を整理したり、ルールなどを理解できるようにしたりした。まずはF児の気持ちを受け止めてから、教師がノートにイラストや文字で、スケジュールを書きながら、授業の内容や、どの場面でF児のやりたいことができるかを説明した。何度も教師と書いて話してとやり取りする中で、今の状況を理解しようとするが増えたり、ルールを理解しながら取り組んだりすることができた。

このことから、自分の思いや気持ちを相手に伝わる言葉で表現することが難しいことに困難さがある子供への指導のポイントは、以下のようにまとめることができる。

- ・子供の気持ちや思いを教師が否定や拒否することなく受け止めること
- ・子供の実態に応じて、文字やイラスト、動画等を活用し、教師とのやり取りを通して、子供自身が自分のすることや物事の理由、ルールを分かって取り組むことができるようにすること

### ③活動や相手に合わせて自分の言動を調整することが難しい子供への指導のポイント

小学部6年生のH児は、活動や相手に合わせて自分の言動を調整するという困難さがあった。H児への指導では、まずは、教師が、状況やH児の働き掛け、それを受けた相手の気持ちを、順を追って文字や絵で表し、整理して一緒に確認したり、H児の気持ちが高揚したときには、静かな場所へ移動してから話をするようにしたりした。教師は、まずはH児の気持ちや行動を受け止めながら、ノートに状況やH児の気持ち、相手の気持ち、どんな関わり方をすればよかったのかなど書き、教師と一緒に考えたり、確認したりしたことで、落ち着いて教師の話を聞き、日常の中で、友達との言葉でのやり取りが増えた。

また、「〇〇さんも一緒にやろう」などと教師や友達を言葉で活動に誘いかけることもあった。次に、やり取りの成功体験を積み重ねた。H児が相手を困らせるような関わりをしたときには、相手にとって望ましい言葉に言い直して、「できた。」で終わるようにしたり、自分から望ましい関わりができたときには称賛したりするようにした。そのことで、同じような場面があったときに、相手を気遣う言葉や行動が見られるようになってきた。

このことから、活動や相手に合わせて自分の言動を調整することに困難さがある子供への指導のポイントは、以下のようにまとめることができる。

- ・教師が子供の気持ちや行動を受け止めること
- ・教師とのやり取りを通して、子供に自分自身の気持ち、相手の気持ち、今の状況、どう関わればよかったのかなどについて考えさせること
- ・教師と一緒に望ましい言動を確認し、「できた」という成功体験で関わりを終えること

#### (ウ) まとめ

自立活動は、個々の幼児児童の障害による学習上又は生活上の困難を改善するために行う指導であるため、同じような指導方法のように思えても、どんな教材使うか、どんな言葉を使うか、どのタイミングで何を提示するのかなど子供によって異なる。その上で、各学級の実践事例を基にしながら、様々な困難さをもった幼児児童への効果的だった指導のポイントについて整理すると、教師が子供との関わる時は、まずは、子供の気持ちを拒否したり否定したりすることなくそのまま受け止めることが大切であった。学校生活の中において、学級の子供の状況、活動の場面などにより、子供の気持ちを十分に受け入れることが難しいことが多くある。だからこそ、まずは、教師が子供の抱えている思いに共感し、言葉を掛けることが重要な関わりである。また、コミュニケーション面に課題がある自閉症を併せもつ子供たちだからこそ、自分の気持ちを分かってくれる大好きな相手と、自分の好きな遊びを一緒にしながらやり取りすることで、自分以外の相手に気付き、自分のやりたいことややりたくないことなどの思いを表情や動き、声や言葉で表現し、言葉や物事の成り立ち、相手の気持ちなどを学んでいくことが分かった。さらに、文字やイラスト、動画等を活用しながら、教師とやり取りすることを通して、子供自身が自分のすることや物事の理由、ルールを分かって取り組んだり、相手の気持ちや今の状況、どう関わればよかったのかなどについて考えたりすることが大切であった。

#### (エ) 今後の課題

今後の課題は、以下の2点である

- ・子供の指導課題から目標設定して行った授業づくりについて、指導内容や指導方法、評価の観点等について複数の視点で検討しながら授業改善を行うこと
- ・授業改善を行うことを通して、子供の変容について整理し、子供の困難さに応じて効果的な指導方法等を明らかにしてまとめること